

# 平成28年度予算をこう評価する

3月15日の本会議において、平成28年度一般会計予算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

**賛成**

重点施策等を推進していくための新規事業やレベルアップ事業が組み入れられており高く評価

**自 民 党**

自由民主党荒川区議会議員団は、本予算の編成に当たり、区民生活の向上、安心・安全に暮らせる荒川区を目指し、9つの重点項目を始めとした、約300の事項を積極的に推進していくよう要望した。この要望を踏まえ、区は、重要課題や区民生活に的確に対応した施策に財源を重点的かつ効果的に配分する一方、内部努力の更なる徹底や事務事業全般にわたる再点検・見直しを図っている。今後の行政需要に対応するため、抑制できるものは可能な限り抑制する一方、我が党が要望した重点施策等を推進するための新規事業やレベルアップ事業が積極的に組み入れられた予算編成に当たっての区長及び区当局の努力を高く評価する。

主な施策について述べると、不燃化特区の小規模な用地の防災スポットとしての整備、「ゆいの森あらかわ」開設準備、リサイクルセンターの開設、国家戦略特区を活用した公園内保育園の整備、放課後子ども総合プランの本格実施、学校図書館の更なる活用、認知症の正しい理解の普及と早期発見・診断・治療の体制作り、設備投資等に対する補助金や経営指導による荒川区小規模事業者経営力強化支援事業である。

これらの他にも、各分野の施策や事務事業を具体的に確認した。主なものは、自転車盗難防止対策の強化、振り込め詐欺対策の強化、消防団への支援の充実、清里施設の高地トレーニング等への活用、千住大橋南詰周辺への「矢立初めの地」の表示、小中学生の駅伝大会の実施、生活保護受給者へのジェネリック医薬品の更なる推奨、子どもの歯科検診の充実、あらかわ遊園と都電を活用した観光の振興、富士見坂の観光資源としての活用、学校トイレの洋式化の促進と財源確保への働きか

け等々である。

新年度の予算執行に当たっては、地域と区民が輝くために、一層努力することを強く要望し、自由民主党荒川区議会議員団も、執行機関との良き緊張関係を保ちつつ、今後とも力強く西川区政を支えていくことを表明して、賛成の討論とする。



▲矢立初めの地の「千住大橋」

**賛成**

限りある財源を重点的・効果的に配分した予算を評価。区民生活の向上に一層努力するよう要望

**公 明 党**

平成28年度予算は、「幸福実感都市あらかわ」の実現に向け、介護予防の強化や子育て環境の整備、防災・減災対策の推進等、区民の安全・安心はもとより、地域力の強化や連携、文化や経済の活性化等に着実に取り組むことで、「地域と区民が輝く予算」として編成された。予算編成に先立って我が党が提出した要望書を踏まえ、限りある財源を重点的・効果的に配分したものと受け止めている。主な事項として、糖尿病版チャレンジャー事業の創設、地域包括ケアシステムの構築、認知症予防対策の充実、荒川もったいない大作戦の実施、全ての区立公園への防犯カメラの設置等が予算化されており、我が党の主張が幅広く取り入れられていることを評価する。また、予算特別委員会では水害を想定した垂直避難訓練の実施、図書館窓口でのレファレンスサービスの充実、新公会計制度導入と公共施設等総合管理計画等との連携、子どもの居場所づくり活動団体への支援充実、西

日暮里駅前再開発に区民や議員等の意見が反映できる検討委員会の設置、防災部卒業後も地域に貢献できる体制構築等、様々な要望や改善を求めた。

最後に、我が党からの提案・要望を事務執行や予算編成に十分に反映させ、区民生活の向上に一層努力するよう要望し、賛成討論とする。



▲あらかわ遊園運動場周辺の防犯カメラ

## 反対

増税と負担増から暮らし守る防波堤の役割が不十分。区民生活応援に思い切った予算配分を求め反対

## 共産党

一般会計予算に反対する。「家財片付け特約付き火災保険」への助成、保育士等の住宅確保支援、時間延長学童クラブの拡大等、子どもが要望してきた事項の実施は評価する。しかし、区民生活の底上げ・応援、子育て支援策、安心して住み続けられる荒川区の視点からは不十分である。反対の第一に、待機児童対策が不十分である。子どもの居場所づくりの安定した場所の提供を求める。少人数学級や義務教育の公費負担拡大、給付制奨学金等を優先すべきである。第二に、特養ホーム・小規模特養建設やサービス付き高齢者住宅の具体化がないことは問題である。介護保険だけでは不十分で、区としての計画が必要だ。また、空き家の活用対策も検討すべきであり、高齢者の住宅確保、住宅マスタープランの見直し等を求める。次に、具体的に述べると、不燃化特区の取り組み、従前居住者向け公的住宅の確保が必要である。補助92号線の促進は都に断念させるべきだ。住民合意での東尾久地域のふれあい館の建設を求める。生活保護者が賃貸契約の際に必要な保険加入を支援すべきだ。教育に係る費用無償化や福祉の充実を優先して財源を投入することこそが自治体の仕

事である。最後に憲法の平和主義、原発ゼロを地方自治体から発信することを表明して討論とする。



▲特別養護老人ホーム「グリーンハイム荒川」

## 賛成

あらゆる分野で東日本大震災の被災地への支援を追求すること、区民との更なる協働を要望

## 民主・市民

本予算は、地域と区民が輝く予算として、「ゆいの森あらかわ」の整備費や私立保育園運営費等を主な増加要因として、過去最大規模となっている。

区は、将来の財政負担を十分に考慮した上で、基金や起債を積極的に財源に活用する等、中長期的な視点に立った財政運営を行う方針を掲げたが、増加する行政需要に対応する区政運営を希望する。健康・福祉分野は、糖尿病重症化予防、高齢者見守り、介護予防事業を更に充実させることを求める。子育て・教育分野は、子どもの貧困への更なる対応を求める。産業観光分野は、日暮里地域活性化施設が産業振興と賑わいの創出に資するよう期待する。環境分野は、リサイクルセンターの開設ともったいない大作戦に期待する。防災分野は、燃えない街づくりへの努力を評価する。

最後に、あらゆる分野で、東日本大震災の被災地への支援を追求すること、区と区民との協働を更に進めることを要望し、賛成討論とする。



▲ころぼん体操の様子



**反対**

地域社会を支えた層の復活支援を  
西日暮里再開発は手法を改めよ  
**元気クラブ**

汐入や日暮里への人口流入で一見活気を呈しているかに見える荒川区だが、子どもの貧困、奨学金を返せない若者、「下流老人」等を直視すべき。

吉村昭文学館は生誕地・日暮里に移転を。介護保険は税で賄う制度への転換を国に進言せよ。アベノミクスはトリクルダウンしない。中小企業支援強化、滞在型商店街を。地域福祉を担う団体に自由度の高い予算増額を。西川区政6年間の普通建設事業費632億円のうち再開発事業への補助金は実に172億円。ゼネコンと住販会社は荒川区を舞台に利益を得た。マイナス金利で不動産投資が過熱し、駅前再開発も投資対象になる。国民の税を投入する再開発が投資目的に利用されては主旨が違ふ。西日暮里再開発は住宅建設をやめよ。



▲日暮里駅前の再開発

**反対**

タブレットパソコン1万台ばら撒き、朝鮮学校への補助等に加え大局観に欠けた予算に反対

**日本創新党**

防災対策の強化等、評価できる点があるものの、一般会計予算に反対する最大の理由は、学校教育全体を道具頼りで自律性のない方向に劣化させるタブレットパソコンの予算が計上されていることである。議会費は、定数削減や議長、副議長の高額報酬の引き下げ等の改善が進んでいない。朝鮮学校が9割を占める外国人学校保護者補助金を廃絶しない区の本質から目を逸らし続けた姿勢も反対の大きな理由の一つである。

基礎的自治体の政策決定は、国益を常に考え、歴史の縦軸の中で何を引き継ぐべきかという大局観を持たなければならない。国あつての地域であり、地域あつての国である。その点が蔑ろにされた予算である以上、反対討論とする。



▲小・中学校に導入されているタブレットパソコン

**賛成**

区政の重要課題に積極的に取り組んだ編成になっていると高く評価  
**維新の党**

平成28年度予算は、過去最大規模の積極型予算となっている。歳入総額は、一般財源が597億6100万円、一般財源比率61.6%と十分、行政需要に柔軟に対応できる数字であると評価する。歳出について、子育て施策は、国家戦略特区を活用した都立公園内への私立保育園の整備や区立宮前公園内認可保育園の整備を高く評価する。子どもの貧困対策において、「子どもの居場所づくり事業」は重要であると考え。児童虐待対策では、「養育支援訪問事業」と「安心子育て訪問事業」が虐待を未然に防ぐ有効な手段と考える。また、児童相談所設置の体制作りを要望する。本予算は、区政の重要課題に積極的に取り組んだ編成になっていると高く評価し、賛成討論とする。



▲都立汐入公園内の私立保育園整備予定地